

坂本れきし部 郷土のたから

陶芸家 成瀬誠志



成瀬誠志画像(部分)
安藤栄年画

茄子川村に生まれ、世界を虜にした男

19世紀のヨーロッパで大流行した「ジャポニズム」。ここに、坂本出身の陶芸家関わっていることをご存じですか。成瀬誠志。彼の創り出す超絶技巧の美は、後の美術工芸に大きな影響を与えたのです。

山内容堂にも認められた作品

成瀬誠志、本名 和六は、弘化2(1845)年、茄子川村に生まれました。13歳で茄子川焼の窯元、篠原利兵衛に弟子入り。8年後には独立します。明治4(1871)年、26歳の時に上京し薩摩焼の技法を学びます。そして土佐藩主山内容堂や三条実美、北白川宮からも認められ、東京薩摩と呼ばれる金彩を伴う絢爛豪華な薩摩焼の焼物を製作し大成しました。

超絶技巧は海外へ

博覧会などの出品をきっかけに誠志の作品は海外へ輸出されるようになると、19世紀後半からヨーロッパで流行し始めていた「ジャポニズム」にも影響を与えました。

現在もアメリカのボストン美術館や、フランスのビクトリア&アルバート美術館などに所蔵されていることから、一過性のブームではなく、いかに芸術性が高く、技術が優れていたかを知ることができます。



金彩色絵観音像陶額
47.5cm×33.8cm

セントルイス博覧会受賞作品
明治37年(1904)



陶製「陽明門」の屋根
シカゴ・コロンブス大博覧会
明治26年(1893) 工芸一等賞受賞

最高傑作 「陽明門」の悲劇

明治18(1885)年、東京で成功を収めた誠志は、故郷に錦を飾るように帰郷します。代表作「陽明門」は、明治19(1886)年から3年間の月日をかけて作り上げました。日光東照宮の陽明門の1/25サイズ。その美しさから海外の万国博覧会へ出品します。ところが、輸送中に大破。博覧会は屋根など一部のみの展示となりましたが、多くの人の心を魅了し、多くの賛辞を受けました。しかし、大破した作品にショックを受け、鍵付きの大箱に入れ、門外不出となってしまいました。

2023年、郷土の偉人 成瀬誠志の没後100年を迎えます。

誠志の偉業は、陶芸作品だけにとどまりません。明治23(1890)年、茄子川・千旦林組合村の村長、苗木の鉾石から新たな釉薬の発見、岐阜県陶磁器講習所(現多治見工業高校)の設立など、地域の発展と産業の発展にも寄与しました。

昨年、2021年6月、滋賀県工業技術センター信楽窯業技術試験場所蔵の陶片が、誠志の陽明門の一部と判明しました。2023年、没後100年の記念を直前に、私たちに誠志の偉業を知らせてくれる発見となりました。



「陽明門陶片」「天井画天女の一部」

※この広報はリニア中央新幹線沿線地域対策交付金を活用しています。